

「西條」

令和3年度 第1号

求む! Saijo Pride (西條魂)

校長 光安 淳子

今年度4月から、「西條SP通信」を毎月発行しています。

行事日程等を少しでも早く保護者の皆様にお伝えするために発行し、たよりのタイトルを「西條SP通信」としました。SPとは、**Saijo Pride (西條魂)** のことで、西條中学校の生徒であるということに誇りをもって活動に取り組んでほしいという願いが込められています。

先日、地域の方から、「西條中学校の生徒の挨拶が素晴らしい。気持ちのよい挨拶をもらうと元気が出る」とのお言葉をいただきました。地域の一員である西條中生の挨拶が、地域の人を元気にしていると思うと、私も本当に誇らしい気持ちになりました。挨拶は、コミュニケーションの第一歩ですから、これからも大切にしてほしいと思います。

中学生は、これからの次代を担う大切な存在です。そして、一人一人がかけがえのない存在です。私は、一人一人全ての生徒が、限りない可能性を秘めていると思います。夢と希望を語り合い、学び合い、高め合う仲間と共に、学校生活を送ってほしいと思います。笑顔で元気に学校生活を送れることこそが、私は、一番の **Saijo Pride (西條魂)** だと思います。ふるさと西條を愛し誇りに思う心が育ってくれたらと思います。

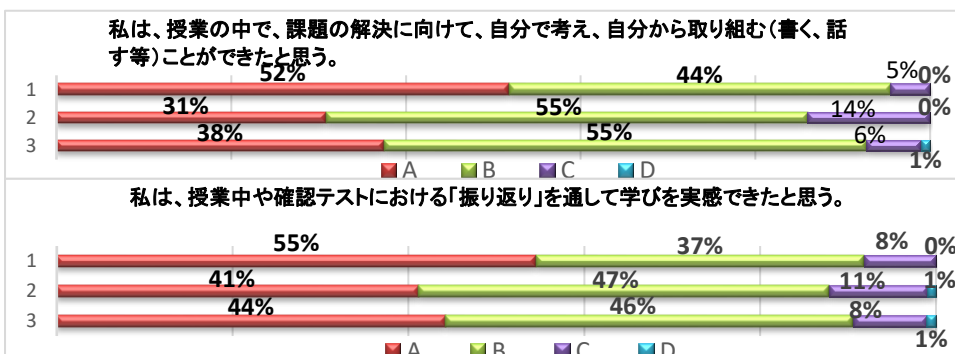
「文化の学園我が西條」 「平和の学園我が西條」 「自由の学園我が西條」

Saijo Pride (西條魂) で、2学期の活動を頑張っていきましょう!

❶ 1学期のアクションプランの取組について

アクションプラン1 学ぶ意欲をもち、知識及び技能を確実に身に付け、自ら主体的に学ぼうとする生徒の育成

アクションプラン1のキーワードは、「**主体的な学び**」です。生徒たちは、課題の解決に向けて、「調べてみたい!」「分かるようになりたい!」という意欲をもつことができました。1学年の社会科の授業では、「邪馬台国が、周囲の国々を従えることができた要因として、最も重要だったことは何だろう」という課題に対して、生徒たちは自分の考えをランキング化して、その後友達と意見を共有しました。今後も、生徒たちが課題に向けて、主体的に取り組もうとする授業展開や学習活動を工夫したいと思います。また、生徒たちは学習の「振り返り」において、学びを実感、達成感を味わうことができました。1学年理科では、「ダブルクリップの持ち手と挟む部分には金属が使われているのか」という課題に対して、生徒は金属の性質をグループで考察し、各グループで選んだ実験方法によって結論を導きだしました。授業の終末における「まとめ」、「振り返り」では、授業の学びを自分の言葉でまとめました。今後も、授業において継続的に「まとめ」や「振り返り」の活動を組み込んでいきたいです。 【学校評価アンケート(生徒)の結果】



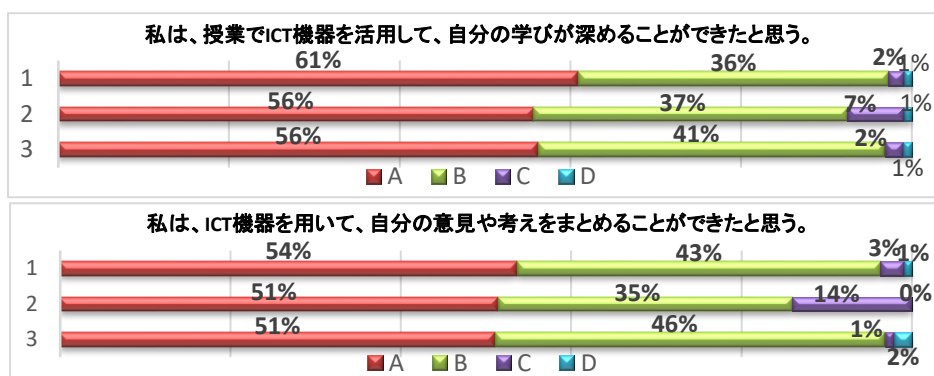
A:よく当てはまる B やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない



アクションプラン2 ICTを活用して、自分の学びが深めることができる生徒の育成

アクションプラン2のキーワードは「ICTの活用」です。ICT機器の活用により、生徒は、情報を収集したり、自分の意見をまとめ、意見を共有したりすることがより一層定着しつつあります。2学年の数学科では、連立方程式の回答を一人一人がタブレットに入力することで、クラスの仲間の考えを電子黒板で共有することができました。1学年の英語科では、英語の自己紹介スピーチを一人一人がタブレットに収録、その後友達のスピーチを電子黒板で共有し、友達のよい点を発見し合いました。今後は、授業、総合的な学習の時間、生徒会等様々な場面での活用頻度を増やしたいと思います。また、効果的な活用形態についても検討していきたいと思っています。

【学校評価アンケート(生徒)の結果】



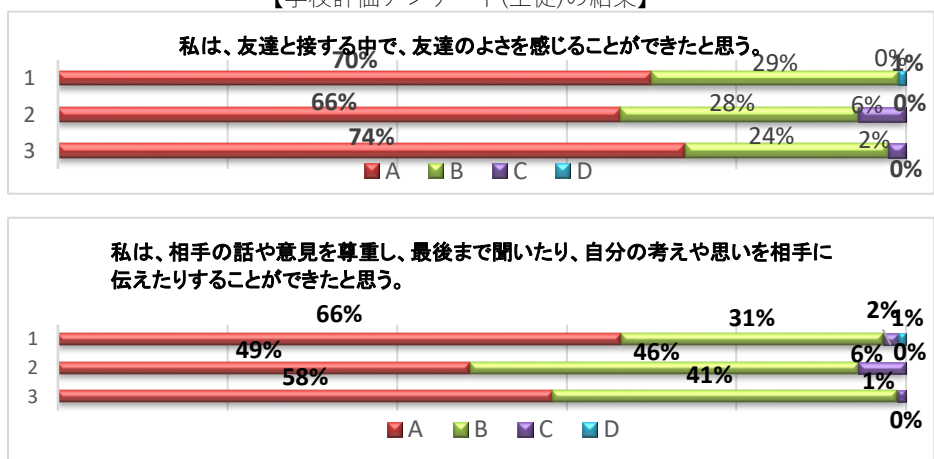
A:よく当てはまる B: やや当てはまる C: あまり当てはまらない D:当てはまらない



アクションプラン3 よりよい人間関係を築き、互いに尊重し、高め合う生徒の育成

アクションプラン3のキーワードは「よりよい人間関係」です。3学年の数学科では、二次方程式の応用問題をグループごとに話し合って解き、その後、別のグループにおいて解説することを行いました。さらに、全体で共有し合い、理解を深めました。また、社会科では「世界を平和にするために必要なことを提言しよう」という課題に対し、ジグソー学習というグループ学習において積極的に友達と意見交換を行いました。これらの活動を通して、生徒たちは、自分の意見を発表したり、相手に教えたり、質問したり、と友達と積極的に関わり合いながら学ぶ楽しさを実感したように思います。下のアンケートの数値の高さから、友達との関わり合いの中で、友達のよさを感じ、友達を認め、賞賛する機会が多くあったと言えます。今後も、互いのよさを認め、尊重し、よりよい人間関係を築くことができるように、QU調査を活用した、生徒理解に努めます。また、相手の話や意見を尊重し、最後まで聴いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりできた生徒の数値も高く、今後も、朝学習や学級活動で対人関係ゲームや構成的グループエンカウンター等を取り入れながら、関わり合いの機会をより多く設定したいと考えております。

【学校評価アンケート(生徒)の結果】



A:よく当てはまる B: やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

